

# エコチル調査の広報及び対話事業について



# 令和5年度の広報活動

【目的】 調査対象者や医療機関・研究者に加えて、広く一般の方々にエコチル調査を理解してもらい、調査参加者に長期にわたる追跡調査に継続して参加してもらえるような意識を醸成すること及び調査成果の正確な情報発信・社会還元を図る。

## 大人も子どもも楽しめるシンポジウムの実施（会場＆オンライン開催）

- 第13回エコチル調査シンポジウム開催（2月18日（日））

※会場参加とライブ配信のハイブリット開催  
※当日来場人数62名（小学生以下12名）  
最大同時視聴者数（ライブ配信時）123名  
2月26日時点の視聴回数506



## 出産・子育てに関する情報メディアとのタイアップ

- 「たまひよ」のWEBサイトに、エコチル調査の取組や調査成果を紹介したタイアップ記事3本を掲載

※掲載日：2月5日（月）、2月13日（火）、2月16日（金）



## 13歳以降の調査の準備（動画の作成等）

- 調査の概要や継続の意義等に関する動画を作成
- 配信2023年7月にエコチル調査実施機関に配布、同9月からYouTubeの環境省動画チャンネルにおいて公開



- エコチル調査の概要を解説したパンフレットの更新・配布 など

## 過年度より継続の活動

- エコチル調査ホームページ：成果発表一覧（和文抄録の掲載）を随時更新、中心仮説に係る論文のプレスリリースを新着情報として掲載、対話事業の成果物を掲載、アクセス数の集計
- メールマガジンの配信
- 親子向け展示物の貸出し
- 報道等のモニタリング及び分析
- 認知度調査（今年度内実施予定）：一般国民対象／医師対象

## 成果の情報発信に係る情報収集等

- 国内外の疫学調査における情報発信等の動向を把握し、エコチル調査の情報発信に関する課題等について整理・検討

# 令和5年度 エコチル調査に係る「地域の子育て世代との対話」

## 【目的】

子育てに関わる関係者が化学物質のリスクについて対話し、寄り添い支え合う環境を作る、いわゆるリスクコミュニケーションを行うことにより、化学物質のリスクについて向き合うことが可能な機会が広がり、上手に向き合うことが可能となる社会を目指す。

### (1) 地域における対話の実践例の創出

- 地域での**双方向性の対話**の実践を通じ、子育て世代等と化学物質のリスクとの上手な向き合い方の実践活動を促進。

### (2) 好事例集の更新

- 効果的な地域対話の取組の横展開に資する**事例集**に事例を追加（予定）。

### (3) 対話事業に関する研修手法の開発

- ユニットセンター担当者に対する**リスクコミュニケーション研修**の開催。

### (4) 成果紹介パンフレットの時点更新

- エコチル調査に係る化学物質やその健康影響の一般的な内容や、エコチル調査の研究結果をわかりやすく伝えるパンフレットの更新（予定）。

## ■ 今年度実施の地域対話

日程	場所	対象 (人数)	講師等 (敬称略)
1/27 (土)	山梨県 身延町	教育 関係者 (8名)	篠原亮次、三宅邦夫 (エコチル調査甲信ユニットセンター) 協力：文珠紀久野 (山梨県立大学名誉教授)
2/11 (日)	大分県 大分市	小中学生 (17名)	井上高教 (大分大学理工学部教授) 辻真弓、菅礼子 (エコチル調査産業医科大学サブユニットセンター) 協力：体験型子ども科学館O-Labo
2/17 (土)	東京都 千代田 区	教育 関係者 (5名)	大矢幸弘 (エコチル調査メディカルサポートセンター) 森田和良 (文京学院大学人間学部児童発達学科特任教授)